

② 神奈川区臨海部の特色とまちづくりの課題

■松山弘子

1 はじめに

神奈川区には、東京湾に面する臨海部、山坂の連続する丘陵部、キャベツ畑が広がる内陸部等の多彩な生活圏が存在している。以下では神奈川区内の臨海部に焦点を合わせ、最近のまちづくりの動き、特色ある神奈川の歴史、地域を取り巻く河川・運河等についてふれてみたい。

2 まちづくりの取組

① 神奈川区政七十周年記念事業

一九二七年（昭和二年）、横浜市に区制が施行され、鶴見、中、保土ヶ谷、磯子とともに神奈川区が誕生した。昨年一九九七年（平成九年）は神奈川区政七十周年にあたり、区民・事業者・行政の三者によるパートナーシップのもと、将来のまちづくりにつながる様々な記念事業が実施された。

中でも「かながわ区探検隊臨海部クルーズ」「かながわ区探検隊イベント列車」は、参加者が普段とは違う視点から臨海部を体験し新しい魅力を発見できる良い機会であった。「臨海部クルーズ」は、大棧橋を出発してみるとみらい21地区、神奈川区臨海部、ベイブ

リッジ等を船で見学するツアーで、八月八日、二十八日の二日間に二百九十六人が参加した。「イベント列車」は、臨海部と羽沢地区を通る東海道貨物線を貸切列車で走るツアーで、八月二十三日に実施し三百八十七人が参加した。（写真1…臨海部を走るイベント列車）

② 神奈川区ビューポイント三十六景

神奈川区では、「ふるさと神奈川区」を再発見し地域への理解と愛着をより深めてもらうため、一九九〇年度（平成二年度）に地域に親しまれている風景や魅力ある眺望点等の中から区民アンケートにより「神奈川区ビューポイント三十六景」を選定した。各所にビューポイントサインを設置したり、散歩道のモデルコースを設定する等、区民に親しまれるまちづくりを目指している。

臨海部には、「子安浜と漁船」「中央卸売市場本場」「運河と船のある風景」「瑞穂橋付近」「神奈川の台場跡」等の数多くのビューポイントがあり、区内でも有数の魅力ある地域となっている。

③ 区民によるまちづくり

区民が中心となって行っているまちづくりで臨海部に関連するものには、河川・運河や

歴史をテーマとした活動が多い。例えば、神奈川区臨海部に広がる河川・運河の環境を向上させ明るいまちづくりを目指す活動、神奈川の歴史の調査研究や公開講座の開催等をまちづくりにつなげていく活動等が挙げられる。活動グループの中には、コンセプトである「神奈川宿」の調査研究だけでなく、旧東海道に関連する他区や他団体との交流・連携を広げながら、区民主体のまちづくりを考えていこうとする積極的な取り組みも見られる。

④ 新しいまちの活力

㊦ 新子安駅西地区で進む再開発

JR新子安駅西地区の約四ヘクタールの区域では、二〇〇〇年（平成十二年）しゅん工予定で再開発事業が進められている。京浜臨海部の玄関口として、オフィスビル、商業施設、集合住宅、地域ケアプラザ等が建設され、地域拠点機能の強化が図られるとともに、産業道路の拡幅、交通広場、歩行者デッキ、公園の新設等の都市基盤の整備も行われる。（写真2…新子安駅西地区再開発完成予想模型）

㊧ インテリジェント・オフィスの進出

近年、神奈川区臨海部への研究開発系企業の進出が目立っている。「テクノウェイブ100」

- 1 はじめに
- 2 まちづくりの取組
- 3 神奈川歴史の町並み
- 4 神奈川区臨海部を取り巻く河川・運河
- 5 区民に身近なうるおいのあるまちへ

写真-1 臨海部を走るイベント列車



写真-2 新子安駅西地区再開発完成予想模型



「ニューステージ横浜」は、新浦島地区の工場跡地に建てられたインテリジェント・オフィスビルで、先端技術産業やソフト関連企業等が入居し、レストラン等の施設は一般に開放されている。「テクノロジビレッジパートナーシップ(TVP)」は、守屋町に米国企業の共同事業場として建設中のビルで、一九九八年(平成十年)しゅん工の予定である。

⑦ 生産・研究開発拠点の集積

神奈川区臨海部には、自動車関連を始めとする企業の工場、研究所等が多く立地している。「日産自動車横浜工場」は、同社創立と同時に開業し日本で初めて自動車の量産体制を確立した伝統ある工場で、現在は主にエンジンやアクスル部品(車軸部品)を生産している。「マツダR&Dセンター横浜」は、同社が国内外に持つ四つの開発拠点の一つであり、最先端技術やデザイン等を研究開発している。(写真-3:日産横浜工場に展示されているダットサン1号車)

3 一 神奈川歴史の町並み

① 一 東海道神奈川宿

神奈川宿は、江戸時代に東海道五十三次の宿場町として定められ、現在の神奈川区臨海部に位置していた。今では宿場町の面影はほとんど見られないが、当時の絵図には、滝の川をはさんで東側に神奈川本陣、西側に青木本陣が描かれている。また、神奈川は東海道の中でも景勝の地として知られ、特に、神奈川台(現在の台町)から見る袖ヶ浦の風景の素晴らしさは、安藤広重の「東海道五拾三次

之内神奈川」や十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にも登場している。

② 一 神奈川と日本の開港

一八五四年(安政元年)の日米和親条約に引き続き、一八五八年(安政五年)には神奈川を含む四港の開港を盛り込んだ日米修好通商条約が締結された。これ以後、イギリス等の諸外国とも同様の条約を結び、開港をひかえた各国には神奈川宿内の寺院が外国公館に割り当てられた。本覚寺(高島台)はアメリカ領事館に、浄瀧寺(幸ヶ谷)はイギリス領事館に、慶運寺(神奈川本町)はフランス領事館に、長延寺(神奈川新町)はオランダ領事館に割り当てられ、さらに、成仏寺(神奈川本町)はアメリカ人宣教師宿舎に、甚行寺(青木町)はフランス公使館に、普門寺(青木町)はイギリス士官宿舎にそれぞれ当てられた。ヘボン式ローマ字で有名なヘボン博士は成仏寺に滞在し、宗興寺(幸ヶ谷)に治療所を開いていた。

しかし、神奈川が東海道に面する要所であったために、その後、横浜を開港地とすることになり、神奈川宿内にあった諸外国の領事館等も次々と横浜へ移っていった。(写真-4:フランス領事館があった慶運寺)

③ 一 神奈川宿歴史の道

「神奈川宿歴史の道」は、東海道の宿場町として繁栄した歴史や、今も語り継がれる浦島太郎等の伝説をたどって訪ね歩くことができるよう景観整備した約四キロメートルの散歩道である。歴史や伝説を残す要所には絵図

写真-3 日産横浜工場に展示されているダットサン1号車

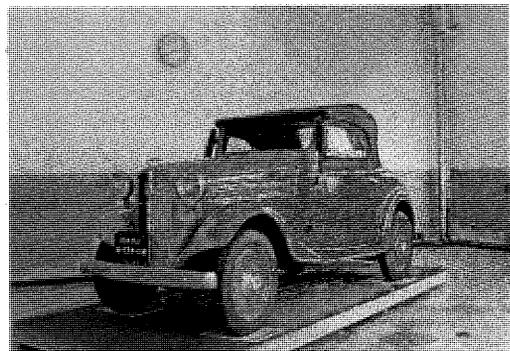
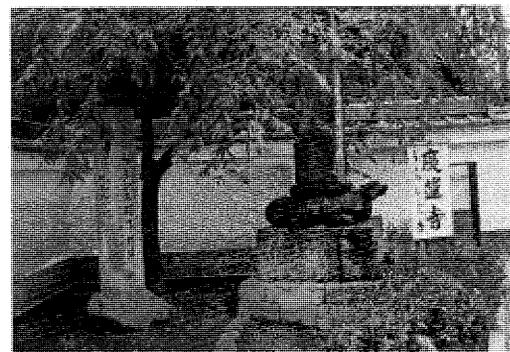


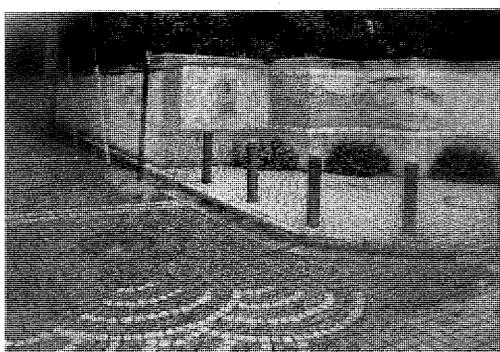
写真-4 フランス領事館があった慶運寺



や古地図等の歴史的資料とわかりやすい解説によるガイドパネルが設置されており、主要ルートの歩道上の茶色のレンガタイルに沿って歩くと次のガイドパネルに行き着くことができる。また、ガイドパネル前の歩道や街路灯には東海道にちなんだ青海波のシンボルマークが、歩道の車止めには浦島伝説にちなんだ亀がデザインされ、住む人も訪れる人も楽しめる町並みとなっている。(写真-5:神奈川宿歴史の道)

4 一 神奈川区臨海部を取り巻く河川・運河

写真-5 神奈川宿歴史の道



① 河川・運河の成立

神奈川区臨海部は、内陸側に住宅や商業等が密集する既成市街地が帯状に広がり、海側に埋立地とその間を河川・運河が縦横に流れる地形となっている。埋立地には企業の工場等の業務系施設が集積し、これらの埋立地をつなぐように東海道貨物線が通っている。

神奈川区臨海部の埋立地と河川・運河の成立は明治時代まで遡る。最初の海岸線の埋立は幕末の神奈川台場の構築だが、本格的な埋立が始まったのは明治期以降のことである。鉄道用地の埋立から始まり、やがて横浜港の繁栄とともにその重要性に注目した実業家等によって工業用地として水面の埋立が進んでいった。

現在の入江川派川では、内陸側の民家が密集する町並みと、ハイテクビルや研究所等が立ち並ぶ近代的な埋立地の様子が、派川をはさんで共存する風景が見られる。

② 河川・運河周辺の施設

⑦ 横浜市中央卸売市場本場

一九三一年（昭和六年）に東日本で最初に開設された歴史ある市場で、約十ヘクタールの広大な敷地では、毎日早朝から青果や魚等がせり等により取引され、活況を呈している。今年の十月十八日には「市場まつり」が開催される。（写真―6…横浜市中央卸売市場本場のせりの様子）

⑧ 神奈川下水処理場

一九七八年（昭和五十三年）に横浜市で七

番目の処理場として運転を開始した。神奈川区、西区、保土ヶ谷区の大部分と鶴見区、旭区、港北区の一部を対象に下水処理をしている。本市でも最大規模の処理場の一つである。毎年、千人程度の見学者があるほか、一九九八年（平成十年）夏休みには、処理場紹介のイベントとして「だいちちゃんランド」が開催され、親子連れで賑った。

⑨ 横浜ノース・ドック、神奈川ミルク・プラント

いづれも戦後に米軍に接收された施設で、瑞穂ふ頭にある横浜ノース・ドックは物資輸送の中継拠点として現在も使用されている。亀住町他にある神奈川ミルク・プラントは米軍関係者向けの乳製品を製造する施設であったが、一九九八年（平成十年）九月末に閉鎖され、横浜ノース・ドック内に代替の施設として建設される冷蔵倉庫完成後に返還される予定である。

⑩ 出田町ふ頭

一九五四年（昭和二十九年）に二バースが、さらに一九五八年（昭和三十三年）から一九六三年（昭和三十八年）にかけて二バースが建設された。広さ約十四ヘクタールのふ頭には、バナナ専用上屋や青果上屋があり、横浜港のバナナの陸揚げは主にこのふ頭で行われている。現在、岸壁の老朽化に対応するため、バースの改修工事が進められている。（写真―7…出田町ふ頭航空写真）

5 区民に身近なうるおいのあるまち

これまで見てきたように、神奈川区臨海部は、歴史的なまちであるとともに、河川・運河という独特な地形を有する地域である。この地域のまちづくりのキーワードは「歴史」「河川・運河」で、これらを軸とした環境整備による魅力ある空間づくりが重要である。

確かに、入江川派川や神奈川下水処理場周辺の常磐川等では、以前と比べて水質が良くなり、魚や水生生物が増え、カワセミやカモ類等の水辺の鳥たちも多く見かけるようになってきた。しかし、沈船・廃船等の放置船の数は一向に減らず、護岸の老朽化とともに、水辺の環境悪化の一因となっている。

また、内陸側に市街地をかかえているにもかかわらず、内陸側と臨海部とを結ぶアクセスが弱いことや市民開放施設の少なさ等から、区民にとって臨海部が身近なものになっていくとは言い難い。

臨海部を区民に開かれた身近でうるおいのあるまちとするためには、水辺環境を改善するとともに、臨海部へのアクセスの強化を図る等、内陸部と臨海部が一体となったまちづくりが課題と考える。

△神奈川区区政推進課企画調整係長▽

写真―6 横浜市中央卸売市場本場のせりの様子



写真―7 出田町ふ頭航空写真

